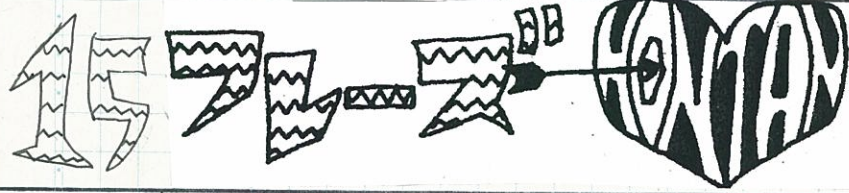


HON TANTAN

図書館ボランティア「本探」が 第38号
 司の図書館情報をお知らせします

うきうき(情報)が
 いっぱい!!!

2013年
 6月号



今回の15ページのテーマは
「ヒーローのセリフ」
 古今東西、様々なヒーローが存在しています。
 おぼろのヒーローは誰?

おんこの
 オススメ 横山秀夫 913.6/Y
 『64』
「うちの記者たちは？」
 頼れるおじさんコンビあり!!
 この言葉の重み、読んだら分かります

隆の
 オススメ 有川浩 913.6/A
 『フーター、家を買った』
「目標：就職ね。金貯める。(当座の目標、百円)」
 母の為、家族の為。
 目標は達成できるのか!?

鶏の
 オススメ 貫石祐介 913.6/K
 『青の炎』
「……じゃあな」
 母と妹の為の完全犯罪を崩した17年が
 少女に告げた最後の言葉

伊ねこの
 オススメ 遠藤周作 913.6/E
 『沈黙』
 (閑架:CS905192)
「踏んざい、そのために私は祈るのだ」
 拷問される信者のために踏絵を挿す記事を
 強いられた司祭に、踏絵のオススメが語りかける

おたけの
 オススメ 山田真哉 913.6/Y-[1]
 『女子学生会計士の事件簿』
「だから、私に任せておきなさい」
 女子学生会計士が会社の陰謀暴いていく!

トーマスの
 オススメ 伊坂幸太郎 913.6/I
 『アヒルと鴨のインロッカー』
「一緒に本屋を襲わなさいか」
 それか、彼にとっての正義だった。

川の
 オススメ 朝井リョウ 913.6/A
 『千の男子!!』
「一発おもしろいことしようぜ」
 千に青春を懸けた、最高にかっこいい男たち

きいの
 オススメ 安生正 913.6/A
 『生存者ゼロ』
「我々に命を託さざるを得ない人が、すぐそこにいる」
 4人は未知なる感染症に立ち向かう

びわこの
 オススメ リチャード・P. フォインマン 289/F-1
 『ピエロ談話、フォインマン』
 (岩波現代文庫)
「こんな難しいことが僕にできるのか」
 専門の枠を超え多彩な方面で活躍したノーベル賞物理学者の凄さ。

七味の
 オススメ 乙一 913.6/O
 『200』
「弟には指一本、触らせたくない!」
 今までとは違った姉が
 弟を守るために立ち向かう。

鏡の
 オススメ 伊坂幸太郎 913.6/I
 『魔王』
「未来を考えるのは若者なんだ」
 主人公は考える、未来のために

あすみの
 オススメ 萩原浩 913.6/O
 『神様からいひ言』
「お、素直に聞くことはいいことだ。素直が、いちばんいい」
 人財迷った主人公の前に現れ、かいた言葉。

珠の
 オススメ 夏目漱石 918.6/S-1
 『坊っちゃん』
 かわる弊風を杜絶するためにと、吾れはこの学校に取敢て奉じているので、二本を見逃すくらいはせめてから教師に「エラな者がいい」と思います。
 教師の鑑

カエルの
 オススメ 重松清 913.6/S
 『エイジ』
「絶対ばくは、そいつを好きにはなれない」
 シカモト作に人言っている。
 その気持ちで大事にバクを飼う

キエウの
 オススメ 米澤穂信 913.6/Y
 『氷菓』
「I Scream」
 優しい英雄の末路



「告白」 778.72/K
 あらすじを説明すると、教師である主人公は、娘を自分の教え子に殺され、主人公は犯人を探し、復讐するというものである。復讐が生半可なものではなく、原作の方ではエイズ患者の血を犯人の飲んでいる牛乳に入れ、最終的には犯人の一番大事な人を自分の手で殺してしまうのである。映画ではラストが違っており、そこを楽しみにしていた方には、後味がいいとは言えないが、11年法やいじめなどの問題を考えさせられる点。だからぜひ見て欲しい。
 <カン>



『国家(上下)』 フォトン 131.3/P. 131.3/P-2

何でこんなところに、こんなふうに分かれているんだろう。
 そう思ったことがある人は多いと思います。それは、哲学しているということのひとつの弊といえます。この本には、そんな問いかけが盛り沢山。それを古代の賢人が思うままに深めてゆく。これはとても楽しいことです。

哲学するというのは、端的に言えば、ウツシと悩んで、悩むことでもあるから、いつもやっているわけにはいきません。

しかし、この本にはその少ない思索の時をうずめるだけの価値があります。誰もがどうとしか答えはわからないと思われるその普遍性で、個人から国家まで、様々な事柄を問答により、軽快に貫いてゆくその明晰さが、私たちに考えることの楽しさを思い起こしてくれます。

ただ読んでいてだけでも、問答の明快さに、なにか頭がすっきりし、自らの

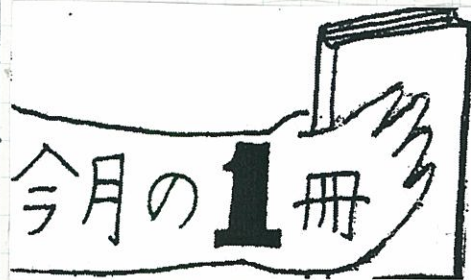
思考様式の変化が感じ取れます。

少しは彼らに近づきたい。Fotonの作品とは裏腹に、小難しいことを考え、そんなことをいってしまいます。

〈びわこ〉

HONTAN
 雑誌の書評を
 紹介
**Pickup
 MAGAZINES**

『ツナグ』 辻村深月 913.6/T



一生に一度だけ、死者との再会を叶えてくれるという「使者(ツナグ)」。

突然死したアイドルが、彼の友人にOL。年老いた母に癌告知が出来な

かった頑固な息子。親友に抱いた嫉妬心に苛まれる女子高生。失踪した婚約者を持つ続ける会社員……。ツナグの仲介のもと再会した生者と死者。それぞれの想いをかかえた一夜の邂逅は何をもたせよのだろうか。

生前に聞いてほかった相手の気持ち、誰せよかっただけの自分の気持ちを伝えることにより、人々との繋がりの大切さが見えてくる物語です。

それぞれの主人公が、人間関係などの身近な悩みを抱えており、その悩みは、きっと誰でも一度はぶつかったことのあるものだと思います。なので、共感できるところがたくさんあります。人間関係で悩んでいる人は、読むと少し気持ちが軽くなるかもしれません。

去年には映画化もされた作品なので、ぜひ読んでみてください。

〈七味〉

『カ1』 2013 Spring Vol.19

ホッカイドの学のパージから紹介します。

子どもの目線に、お稽古事としての記述があります。お稽古事をしてた人が多いいでしょう。北海道の中では、お稽古事には地域差があるようです。

昔はお稽古事を中心に人間関係が形成していたという人が多かったようです。お稽古事は、生活が豊かではないと出来ないことです。お稽古事ができる人が多いということは、豊かには家庭が多いという証拠にもなるようです。

余談ですが、「ホッカイドの学」というのは、おもしろいと思います。今回の『カ1』では毎回掲載されています。北星でも「ホッカイドの学」についての授業もあります。自分の住んでいる地域について、改めて勉強してみると、今回の紹介ページのような発見があるかもしれません。

〈筆〉

帯展示『家族がテーマの帯』

今回の帯展示は、「家族がテーマの帯」と題し、帯を集めて展示しました。

展示でも紹介しているいくつかの本を読みすすめていくと、だんだんと「家族」というものが分からなくなってきます。様々な家族を見ていく中で、家族とは？ 親子とは？ 父親とは？ 母親とは？ 兄弟とは？ として、家族に含まれる私たちにどのような存在となっているのだろうか。一番身近である「家族」というものを改めてみつめてみる。

〈展示担当者〉

HONTAN
 展
 示
 で
 み
 つ
 け
 て



〈編集後記〉 新メンバーが入りました!!

2013年6月現在、新メンバーが入りました!! なんと8人!!

これでHONTANメンバーは、既存メンバーを含め18人とになりました!!

これから、学生のみなさんが図書館をより活用して下さるよう、活動していきたいと思っております。よろしくお願ひします!引き続きまだまだメンバー募集しておりますので気軽に図書館へ足を運んでください。

〈きょう〉